

公園墓地のさきがけ
開苑55周年

我が家族、
春秋苑に眠る。

俳優・1905年～2004年
島田正吾（本人署名）

島田正吾



故・島田正吾氏のご長女・林右子さん。
生涯現役で、役者人生をまっとうした父を偲ぶ。

先日、父のお弟子さんから「昨日、春秋苑に行ってきました」と、お電話がありました。
芝居がひとつ終わるたび、今も皆さん、父の墓前に報告に来てくださるんです。
昔、父が辰巳のおじさま（故・辰巳柳太郎氏）に「おまえ（うちの墓所のすぐ前の区画を）
買ってあげばいいのに。そうすれば劇団員が同時にお参りできる」と言っていたのを
思い出します。生涯、新国劇を愛し、守り続けた父らしい言葉だったと思います。

●島田正吾氏のプロフィール 本名・服部喜久太郎。横浜出身。17歳の時、
澤田正二郎主宰の新国劇に入団。急逝した澤田の志を継ぎ、故・辰巳柳太郎と共に新国劇の黄金期を築く。
劇団解散後も舞台・テレビ・映画に数多く出演。1990年の舞台「白野舟十郎」を皮切りに、
ライフワークとして新国劇の代表作を一人芝居で毎年上演。紫綬褒章、勲四等旭日小綬章など受賞歴多数。

ご利用者の宗教・宗派を問いません

お問い合わせ資料のご請求は

0120-07-4100
<http://www.shunjuen.or.jp/>

小田急線生田駅
高級公園墓地

春秋苑

〒214-0036 神奈川県川崎市多摩区南生田8-1-1

生涯現役で、役者人生をまっとうした父。

故・島田正吾氏の墓所について、
ご長女・林右子さんにインタビューしました。

父方、母方の祖父母が
仲良く眠る家族の墓所です。

服部家のお墓は保土ヶ谷(横浜市)にあるのですが、母が春秋苑に新しく墓所を作りました。父方の祖父母のお墓を建て、保土ヶ谷から分骨。秋田出身の母方の祖母のお墓も建てました。その母も、昭和四十六年に旅立ちました。どんな思いで春秋苑を選んだのか。



か。今となつては知る由もありませんが、母のお蔭で家族は皆、四区画分の広い敷地内に揃って安らいでいます。辰巳のおじちやまにも春秋苑を勧めていましたね。

母を亡くした後は、私が嫁ぐまでずっと、父と二人暮らしでした。よく一緒にお墓参りをしましたよ。当時は、うちの墓所のまわりが、まだガランとしていて。父は「寂しい、

寂しい」と言っていました。いつだったか、辰巳のおじちやま(故・辰巳柳太郎氏)に、うちのすぐ前の区画を「おまえが買っとけばいいのに」と勧めたこともありました。「そしたら劇団員が一度にお参りできるのに」と。新国劇に惚れ込み守り続けた父らしいですね。九十六歳の一人芝居。父の台詞は完璧でした。

「台詞をトチるようになったり、プロンプをつける(陰から台詞を教える)もらう)ようになったら、舞台はやめる」と、父は生前、話していました。亡くなる二年前、最後の一人芝居「夜もすがら検校」まで完璧に演じきった父。私には見せませんでした。陰で努力をしていたのだと思います。

その一方で、派手なことが苦手なシヤイな人でもありました。葬儀も父らしく家族葬で自宅から送り出しました。

今も、お弟子さん達がお参りに来てくださいます。

先日、父のお弟子さんから「昨日、春秋苑に行ってきました」とお電話をいただきました。皆さん、お芝居が終わるたび、今も父の墓前に報告に来てくださるんです。ありがたいですね。私自身も、年に四、五回はお墓参りに出かけるようにしています。

一人娘の私が嫁ぐ時「これからは林家のことだけをやればいい」と言ってくれた父。その優しさを受け止めつつ、亡き家族のため、春秋苑の墓所を大切にしていきたいと思っています。

